

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470201072		
法人名	社会福祉法人 豊心会		
事業所名	和幸苑グループホーム望み		
所在地	大分県別府市亀川東町20番14号		
自己評価作成日	平成23年6月28日	評価結果市町村受理日	平成24年3月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年8月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

和幸苑グループホーム望みは、利用者様が重度化しドライブ等外に出る機会が減ってきている分、散歩やホームの中で穏やかに過ごしていただけるよう毎日取り組んでいます。職員同士のチームワークがよく、お互いのフォローをしながら利用者様の支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・地域とのつながりを大切にしており、特に防災や避難訓練は、共に学ぶ、助けあうという姿勢を持っている。
 ・利用者が重度化しているが、グループホームの中で穏やかに安心して過ごせるように配慮しており、職員の連携もよく取れている。
 ・利用者家族の訪問が多く、フロアで一緒に過ごすことも多いが、他の利用者が混乱することもなく良い対応が行なわれている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のもと、職員が意識を高め地域の方々との関係性を大切にするように努めています	地域とのつながりと個人の尊厳を重視した理念を職員が話し合っ作り上げ、実践に向けて努力している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1度地域の美容室の方に訪問していただき散髪していただいています。又、自治会の行事に参加したり防災訓練と一緒に参加をしていただいています。	海に近い立地で、防災には特に力を入れ、地域ぐるみでの災害訓練を行なっている。ふだんから近所と付き合い、挨拶、近隣での買い物などを行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災訓練などのボランティアを自治会の方にお願ひし、利用者との交流が持てるようにしています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度利用者家族、民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員と共に、運営推進会議を行い、サービスの向上に努めています。	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、利用者家族や自治会、民生委員などの参加がある。話し合われた意見をサービスに反映させている。また、市側への参加も働きかけている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市への推進会議の報告と、別府市GH協議会を通じて、事業所の実績報告を行っています。	運営推進会議の報告を行ない、別府市グループホーム協議会の研修などの相談や、実績報告をしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で意識し、玄関の施錠や身体拘束を行っていません。	職員は研修により身体拘束の弊害を正しく理解しており、施錠は行なっておらず、言葉かけなどの支援を行うことで、利用者を束縛することのないようお互いに注意しあっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修などで、虐待防止に注意できるよう努めています。		

事業者名:和幸園グループホーム望み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方もおり、必要なときは支援できるようにしています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約の説明や重要事項の説明を1つずつ行い、利用者や家族の不安や疑問に答えられるようにしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回家族会を設け、家族同士の集まりが出来る様にしています。また、面会時に家族の要望などないか聞くように努めています。	家族の訪問時に日常の様子を伝えながら希望や意見を聞き、年に2回の家族会で要望がないかを家族同士で話し合ってもらっている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時、グループホーム会議を開き職員の意見を聞ける機会を設けています。	ケアについての工夫や意見は多く出ており、話し合いの内容を管理者に伝えている。その意見に従って勤務体制などを変えたりしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を持って働ける職員に対し、資格取得の為に奨励を行っています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や、試験等受けられるようにしています。又、GHの研修会の参加を奨励しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度のGH協議会の研修を通じて、他のGHの職員との交流が図れるようになっています。		

事業者名:和幸園グループホーム望み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の面接で、本人や家族と話し合いや顔馴染みになれるようにしています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時から家族の話聞き、出来るだけ家族の求めるものを理解できるように努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況など相談しながら、信頼関係を築けるように努めている。早急な対応が必要なときは、地域包括支援センターの紹介を行っています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思い等を知るように努めている。場面づくりや声かけを行っています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に利用者の様子を毎月の手紙で伝え、本人を支える関係を築き家族の思いに寄り添い家族と同じような思いで支援しています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人との関係が途切れないよう、友人のケアマネとも連絡を取り、一緒に出かけられるよう支援しています。	受診の際に、利用者の住所地に寄ったり、知人を訪ねたりして、関係の維持に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や気分が日々変化しているので、注意深く見守り、利用者同士の関係が上手くいくように支援しています。		

事業者名:和幸園グループホーム望み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了者は、入院先での死亡が多く継続的な関わりを持っていません。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握に努めています。が、意思確認が困難です。そのため、家族などから情報を得るようにしています。	担当者を決めて意思の把握に努めている。家族から利用者の好き嫌いや昔のことなどの情報を得るようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションを行っていますが、認知症が進み答えられない方も多いです。生活歴等は出来るだけ家族から情報を得るようにしています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを考え、その人に合った過ごし方が出来る様に努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを含め、職員全員で意見交換を行っています。	担当職員、家族と話し合い、ケアプランを立て、職員全員でミーティングを行なって共有している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	水分量・排泄・身体状況・日々の暮らしの様子、本人の言葉なども記録しています。又、職員が確認できるよう情報の共有も行っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院の送迎など必要な支援を柔軟に行っています。		

事業者名:和幸園グループホーム望み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園の慰問や、学生のボランティアの受入れを行っています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と契約しているかかりつけ医に受診しています。受診時は、職員が付き添いを行い、連携を取っています。	かかりつけ医の訪問診療を受け、受診の際は職員が同行している。家族との連絡も密に行なっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定し、記録に残しています。変化時や緊急時は、かかりつけ医の看護師に相談連携を取っています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院Drと相談し出来るだけ早期退院できるよう情報交換を行っています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会や、面会時、毎月の手紙などで利用者の状況を伝えると共に、重度化や終末期の話をしています。	契約書に重度化のことが書かれており、受診回数が増えてきた段階で、家族と話し合いをしている。家族の希望を聞き、話し合ったうえで、看取りも行なえる体制を備えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応訓練は定期的には行っていません。緊急時は、かかりつけ医に相談するなどのマニュアルは出来ています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を行っています。地域の方々にも協力していただき避難訓練を行っています。	グループホームが海辺にあるため、台風や水害の災害対策には力を入れている。事業所本部の指令や応援体制、防災グッズや3日分の備蓄などが準備されている。	

事業者名:和幸園グループホーム望み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないように声かけや、対応に配慮するよう努めています。	利用者の多くが介護度が高く、動きの少ない日常を送っているが、職員の声かけや対応が穏やかで、尊厳を大切にされた対応がなされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、ご本人に合わせ職員側の押し付けがないように努めています。また、自分で決める場面を作るようにしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様によって出来ること、出来ない事がある為、一人一人のペースに合わせて過ごせるように支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出するときは、おしゃれな服に着替えたり薄化粧したり出来る支援を行っています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作りの機会は減ってきていますが、ホットプレートを使うときは手伝っていたり食器拭きなど出来る事のお手伝いをお願いすることがあります。	職員が3食をグループホーム内で作っている。好みに合わせた献立や、食事形態を考えて作っており、食事を楽しみに待っている雰囲気がかえる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の病状や、状態に応じて食事の提供を行っています。水分補給も、お茶だけでなく紅茶やコーヒーなどでも行っています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きなどの声かけを行い、利用者様に合わせて職員が見守り介助を行っています。		

事業者名:和幸園グループホーム望み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、時間を把握し定期的 にトイレ誘導・介助を行い排泄を促していま す。布パンツで対応している方もいます。	排泄間隔を考えた声かけや定期誘導により、 布パンツを使用している人もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	体操・歩行訓練などに取り組んでいます。野菜 を多く食べられるよう工夫し、水分補給など も積極的に行っています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調に合わせ、2日に1回入浴や シャワー浴を行っています。又、状態に合わ せて入浴を行うときもあります。	2日に1回の入浴が行われており、体調や希 望によってシャワーなども使っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、 休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムが整 えられるよう援助しています。又、体調、表 情、希望などを配慮し、ゆっくりと休息が取 れるよう支援しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成などを行い、職員が薬 の内容を把握できるようにしています。服薬 は1回ずつ手渡したり、口の中に入れるなど 服薬の管理確認を行っています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様にお手伝いとして、テーブル拭きを 手伝ってもらうことが多いです。日中は、皆 さんの好きな歌を職員と歌っています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出か けられるよう支援に努めている。又、普段は行け ないような場所でも、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら出かけられるように 支援している	天気、本人の気分や体調に合わせて買い 物やドライブ等に出かけています。	できるだけ外に出ることを心がけているが、 高齢化により計画通りにできないことが多く、 年間行事は作られていない。市報やニュース などを見て、出かける先を決め、数人を連れ ての外出となっている。	

事業者名:和幸園グループホーム望み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族よりお金を預り、事業所で管理していますが、外出時や日用品の購入は職員が同行し購入の支援をすることがあります。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>他者に聞こえないところに電話は設置していますが、電話を使う利用者様はいません。ご本人の声は家族に毎月お手紙として送付しています。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアなどで過ごす時間が多い為、光や音、温度などに配慮し居心地よく過ごせる空間作りに努めています。利用者様は、日中フロアで過ごしていることが多いです。</p>	<p>フロアの居心地をよくするため、ソファやテレビの位置を考え、音や温度、採光にも配慮し、1人用の椅子なども配置されている。対面式のキッチンから職員の姿が見えて意思の疎通なども図られている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下や、テラスなどに椅子やテーブルは置いてあり一人二なったり出来る空間を作っていますが、利用者様が重度化しておりそれぞれが気の合った方など特定の利用者様同士で話をすることはありません。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居心地良い空間作りの提供に努めていますが、利用者様が好みなど訴えることはありません。</p>	<p>家族が持参した花や思い出の品などが飾られている。職員の手により室内はよく整頓、清掃されている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>歩行できる方は、手摺まで誘導したり安全で自立した生活が送れるよう見守り声かけ、状況にあわせて付き添いを行っています。</p>		